

ASTROs' 54th Annual Meeting に参加して
(Sandy に振り回されたボストン滞在記)

宮田 裕作

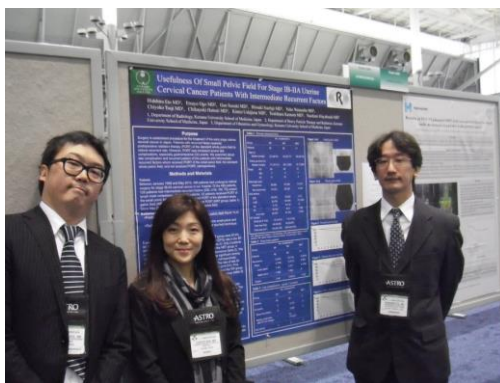
2012年10月28日から31日にボストン(USA)で行われた、第54回 ASTROs' Annual Meeting で江藤先生が発表されるとのことで、淡河先生、江藤先生について行って勉強してこないか、と誘って頂き、二つ返事で参加させて頂きました(実際には現地の29日から31日の期間ですが)。入局して半年しか経っておらず、“右も左も少しくらいしかわからない状態の僕に、治療の国際学会なんて話がついていけるのだろうか…”というものすごい不安を抱えての参加でしたが、その反面、初めての国際学会であること、またハーバード大学やマサチューセッツ総合病院、ダナ・ファーバー癌研究所などの研究医療施設があり、ボストン交響楽団、ボストン美術館(Museum of Fine Arts : MFA)などの文化芸術に優れた、アメリカの主要都市の中でも大変古い歴史のあるボストンで開催されるとあって、ものすごく楽しみにしていました。しかし、それがまさかカリブ海からやってきた女性に振り回されることになろうとは…。

ところで、一つボストン到着前にすごく楽しみにしていたことがあって、それは成田からボストンのローガン国際空港に行くまでに、一度ワシントンにあるダレス国際空港を経由したことでした。ダレス国際空港といえば、そう、『ダイハード2』でブルース・ウィリスがテロリストと戦った舞台です。アクション映画が大好きな私にとってダレス国際空港に着陸することは夢の様なことで、映画で挿入されていたシベリウスの『フィンランディア』が頭の中に響き渡り、アドレナリンがドバドバ出てきて…と、たかが着陸にすごく興奮しながらアメリカ合衆国に入国しました。ただし、入国審査の際に入国目的を **sightseeing** と言ったがために、こわもての審査官から「あの二人(淡河先生、江藤先生)と一緒に来ていたじゃないか」、「彼らは **business** で来たと言ってたぞ」とえらく攻め立てられ、アメリカの洗礼を受けてしまいました。その後ローガン国際空港までは気分が沈んでしまい、ダレス国際空港にはちょっと苦い思い出しか残りませんでした…。

さて、10月終わりのボストンは結構肌寒くて、九州の11月終わりから12月くらいの気候でしたが、紅葉がちょっと進んだ、“いかにも秋だなあ”という景色と、程よく人があふれ、近代的な街並みがある反面、地下鉄や一部の地域では“ちょっと大丈夫か?”と思う様な、いかにもニューイングランド地方の一都市らしい、古く怪しい薄気味悪さが混在している街の雰囲気非常に気に入って、再び元気を取り戻しました。その日は一日の疲れと学会成功を祈って、3人でボストン名物のクラムチャウダーとロブスターを食べに行き、早めにホテルに帰って寝ることにしました。僕が宿泊したホテルは **Renox** ホテルとあって、先生方とは異なる所でしたが、ホテルマンの方がすごく親切で、僕の下手な英語でもいやな顔一つせずに、ホスピタリティーあふれる素晴らしい対応をしていただき、暖かいベッドでぐっすり寝ることが出来ました。しかしその一方で、TVニュースではカリブ出身の女

性の話題で持ちきりになっていようとは、夢にも思いませんでした。

学会初日。朝起きて、さあいくぞ！と意気込んでいると、いきなりアクシデントが…。スーツのズボンのお尻のところが裂けている！！冷や汗だらだら流しながら、“どうしよう…。いつからだ？まさかちょっと前の友達の結婚式の時から破れていたのか？ならば、破れたズボンを履いたままで福岡天神の街を歩き回ったぞ…。いやいや待て待て…。まずは学会をどうするかだ…。どうする？どうしよう？”と焦りに焦ったことからスタートしました(以降はたまたまスーツケースに入っていた黒のカジュアルパンツで代用しました)。何とかズボン問題をクリアした後、ホテルのロビーに集合し、バスに乗ってさっそく学会会場へ行きました。会場はとんでもなく広く、福岡ドームくらいの広さでしょうか、圧倒されながら、企業展示やポスターを見て回りました。JASTROだと治療機器や検査機器がメインで展示されていますが、ASTROではそれらに加えて、実験用のマウスの放射線治療装置や治療室の壁の素材などの展示も多く、中には全く関係のない靴の販売まで行っており、“何でもありなのか！”と驚いてしまいました。その後、僕はリンパ腫治療に関する講演を聞きかかったので、1時間程度別行動をとって聞いていました(スライドメインであったので、捲し立てる様に早い英語でも、半分以上は理解できたと思いますが)。この講演は途中でアンケートを行い治療方針に関する集計をとって解説する形式であり、周りのDr.にばれないようにリンパ腫治療本を **cheating** しながら、日本はこうだ！と言わんばかりの顔で、講演を楽しんできました。他にも魅力的な講演が沢山あり、またポスターの内容も大変面白く、“来てよかった！”と国際学会に参加出来たことに幸せを噛みしめていました。



江藤先生のポスター前で記念撮影。

その日の夜は佐賀大学の徳丸 直郎先生、戸山 真吾先生と合流して一緒に夕食に行きましたが、ここでもヒヤリハットというかアクシデントが…。ボストン滞在中は僕が食事係で、お店を探す大役を担うことになり、その日は Union oyster bar という、John F Kennedy が足繁く通ったといわれるオイスターバーに行こうとしましたが、予約なしで行ったため1時間待ちと言われ、他店を探そうと寒い中先生方を連れまわすことになり、非常にご迷惑かけてしまいました(すみません)。何とか暖かいごはんを食べることが出来、また落ち込ん

だ気分しているとホテルマンのおじいさんが暖かい言葉をかけて下さったこともあり、学会初日の夜もゆったりリラックスすることが出来ました。ところが…、TVをつけると、何やら“Sandy”という女性に関して、あらゆるTV局が取り上げているではありませんか。“何だ、この女性は？ スキャンダラスなお騒がせ芸能人か何かなのか？”と耳を傾けていると、確かにお騒がせもお騒がせ、ハリケーンじゃないですか。しかもボストンに接近している！！ そういえば日本を発つ前にASTROから、「ハリケーンが来ようと、元気に学会を開催します」とのメールがあったような…。しかし僕は台風が頻繁に襲来する日本国の国民。“なーんだ、たかがハリケーンじゃないか”と高を括っていました。しかし、これが学会最終日に思いもよらないことになってしまい…。



どの局も、Sandyの特番をしていました。

2日目、確かにハリケーンが近づいてきたようで、風が強く、どんよりとした分厚い雲に覆われた天気になっていました。淡河先生は乳癌の講演に参加するため朝早くに学会会場に行かれましたが、僕はボストンをちょっと散策しようと思い、江藤先生の発表前の午前中に、先生をお誘いしてハーバード大学本部へと行ってきました。アカデミックな大学の雰囲気浸っていたのですが、それにしても何やら人気が少ない…。ちょっと生協(Coop)に行ってみようと思ったのですが、なんとSandyのため閉店しており、大学も休校、周辺の店もほとんど閉店していたため、わずかな時間しか楽しめずにホテルに舞い戻ってきました。ところが途中で淡河先生もホテルに帰ってこられて、なんと学会も午後は中止となったようです。淡河先生によると、ある程度講演や演題発表があった後、学会会長の方がひょいと現れ、「昼から中止します」とのこと。するとシャッターが次々と閉まってきたそうです。そういうことで午後からホテルに缶詰め状態に突入、夕方にもう一度ホテルで合流しようということになり、自分のホテルに帰ってきました。またどうやらハリケーンは

台風より少しばかり激しい様で、町の食料品店や雑貨店はすべて昼 1・2 時に閉店することになり、急いで食料品、お酒、大量のお菓子、あと適当な新聞を購入し、缶詰め生活に突入しました。夕方合流予定でしたが、あまりの風の強さにホテルから出ない方が良いとのこと、翌朝まで本当に一步も外に出ずに 2 日目を過ごしてしまいました。



皆さん、食糧を買い込んでいます。さあ！缶詰め生活の始まりです。

3 日目の朝、外は何事もなかったように晴れ晴れとしており、Sandy はボストンぎりぎりで進路を変更したようでした。台風一過ならぬハリケーン一過であり、その日は朝から元気に学会が開催され、“やっぱり何もなかったじゃないか！”ということで、最終日も思いっきり学会を満喫してきました。夜は学会の隣のホテルで、JASTRO in ASTRO ということで、日本からの先生方が一堂に集まって講演・会食が開かれ、外国人だらけのボストン市内で、日本人だけのほっとする時間を楽しむことが出来ました。しかし！！会食を終え、帰ろうとするときにちょうど医局から淡河先生に電話が…。そして、「帰りの飛行機が飛んでいないって！」との淡河先生の一言に凍りつく江藤先生と僕。翌日(現地の 11 月 1 日)の飛行機で帰る予定であり、飛行機はニューヨークの JFK 国際空港経由でローガン国際空港に来るはずであったのですが、Sandy がニューヨークを直撃したため、飛行機が飛んでいなかったのです。“まずい…、このままでは日本に帰れない…”ということで、代わりの飛行機チケットをゲットしようと、その日の夜 0 時過ぎにホテルをチェックアウトし、ローガン国際空港に徹夜で並ぶことにしました。がらんとした空港のチケットカウンターの最前列で床に座り込み、3 人仲良くカウンターが開くまで待っていました。途中、気の良い警察官のおじさんとの出会いやお菓子パーティーなど楽しいことがあったり、逆に掃除のおじさんに「並ぶなら 5 時くらいから並んでくれ。」と注意されたり、カウンターのお姉さんの機嫌の悪さに圧倒されたり(チケット変更は本当に面倒の様です)と色々ありましたが、朝 6 時頃になって何とか帰国予定の翌日の飛行機のチケットを入手できました。



飛行機がなくなり困り果てている様子を、徳丸先生に撮って頂きました。

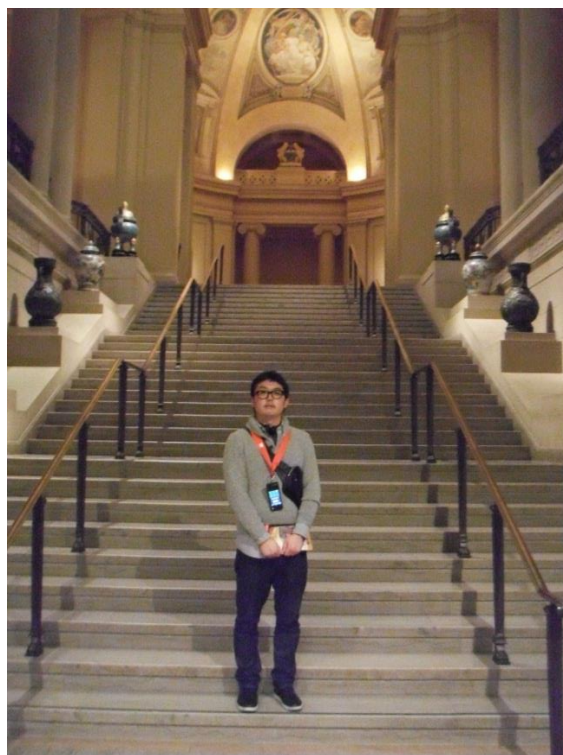
Sandy のせいで(おかげで?)予定より 1 日延長することになり、ボストンを満喫しようという考えもありましたが、さすがに色々ありすぎて疲れ切ってしまい、とりあえずホテルに戻って寝ようということになり、ホテルに着くや否やぐっすり眠り込んでしまい、少し遅めの昼過ぎからボストン散策することになりました。“せっかくボストンに来たならボストン美術館だ!”ということで MFA に向かい、ルノアールやモネ、若冲、歌麿、またエジプトのミイラや発掘品などを鑑賞し、至福の時間を過ごしました(日本美術は他施設に貸し出し中であり、恐らくそれが日本で開催されていた“ボストン美術館展”だと思いますが、少ないなりに楽しめました)。またその日の夜は、学会初日に行くことが出来なかった Union oyster bar に予約して行き、美味しいカキやマッスル貝をお腹一杯食べ、初日のリベンジをすることが出来ました。

ボストン滞在最終日。色々刺激的な出来事があり、むしろ“ボストンにずっと滞在していたいな”とすら思いましたが、ニュージャージー州のニューアーク・リバティー国際空港経由で、福岡に帰ることになりました。ちなみにどうやら僕は空港で一騒動起こってしまう体質の様です。キャンセル待ちで飛行機の座席が限られていたため、僕だけ先生方より一便早い飛行機でニューアーク・リバティー国際空港に到着したのですが、この空港は結構広いため成田行きの搭乗ゲートが分からず、近くの警備員の人に尋ねると、日本語で「アッチダヨ。」と教えてくれたので、「Thank you, sir.」と返したところ、「ニホンゴデカエシテイルンダヨ。ニホンゴシャベレヨ。」と怒られてしまいました(笑)。それはともかく、それからは今までの長旅で一番長く感じたフライトでしたが、無事日本に帰国することが出来ました。しかし、やはり僕が日本国民だからなのでしょう。ボストンに留まりたいと思っていたはずなのに、成田に到着して、“帰ってきたんだ…”という実感が湧き、ちょっと感動してしまいました。なにより日本についてから何も食べていなかったのも、先生方と別れるや否や、すぐに大学病院前の人力うどんに駆け込んで、久しぶりの日本食を堪能しました。ほろっと涙がこぼれそうになるくらい、とっても美味いうどんでした。

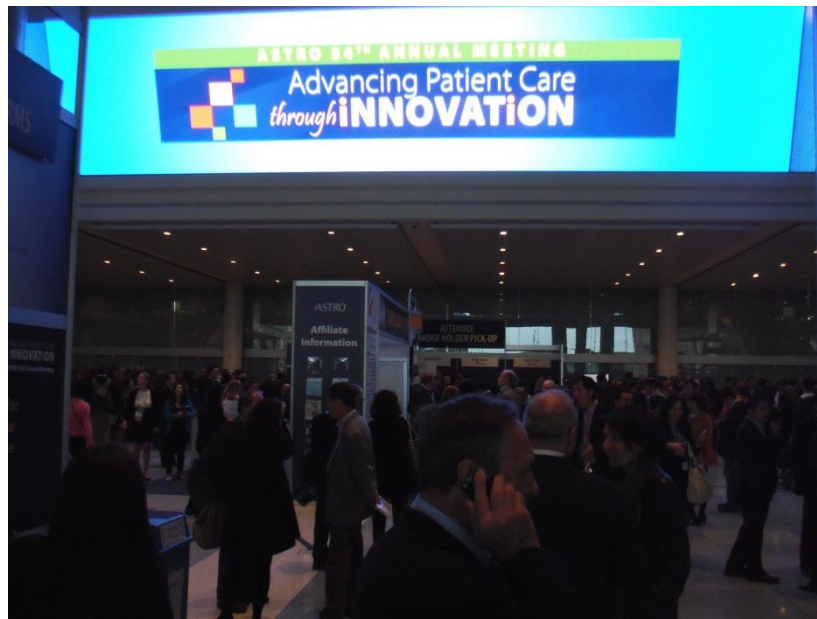
今回、人生最初の国際学会でしたが、本当に忘れられない旅(珍道中?)となりました。先生方にお聞きしましたが、この様なことはあまり経験しないことなのだそうです。楽しく

勉強出来ましたし、貴重な体験や失敗をすることが出来ました。学会で勉強させて下さった教授をはじめとする医局の先生方、病棟を切り盛りしていただいた先輩方や同級生の久木山先生、研修医の先生に本当にお世話になりました。そして、足を引っ張ってばかりであった僕を暖かい目で見守って下さった、淡河先生と江藤先生に感謝しています。ありがとうございました。今後も国際学会に参加できる機会があれば是非参加し、いずれは oral で発表できるようになりたいと思っています。

最後に。体験記の内容をもう少しまとめれば良かったのですが、徒然なるままに書いたところ意外に面白くなったので、そのまま掲載して頂きました。読みにくい箇所があるかと思いますが、ご了承下さい。



MFA での一枚。至福の時間でした。



楽しかった ASTROs' 54th Annual meeting in Boston.

第 55 回はアトランタで開催予定です。『風と共に去りぬ』の舞台です。

Boston-ASATRO 学会の追記（淡河恵津世）

私もそれなりに海外の学会には参りましたが、今回のようなハリケーンに巻き込まれることは初めてで、現地でどうしたものか？という状況でした。

2 日目の学会の午前中のセッションを聞いた直後、突然、座長から「ASTRO は閉鎖するので、午後のセッションは全部中止」との連絡があり、「??」のまま移動していると、どんどん会場内のシャッターが閉まり、2 時まででシャトルバスも終了というアナウンスが流れ、あわててホテル行きのシャトルバスに飛び乗りました。ホテルの帰ると、ロビーは食料を持った人が沢山ウロウロしていて、とにかく 24 時間は厳戒態勢とのこと。ホテルに缶詰でしたが、宿泊ホテルがよかったので、部屋は停電もなく、安全でした。

このような自然災害の場合、日本から航空券を変更できるは、2 日以降らしく、翌日の飛行機を含め、最短で帰るためには、現地の空港で直接交渉しなければならず、空港で偶然にもキャンセル空きがあるラッキー状況もみこして、長蛇の列（有名芸能人のコンサートか、新型コンピュータの販売に並ぶ列に似てる）の先頭に並ぶ覚悟も必要です。そして、現地の空港スタッフの不機嫌そうな態度（べつに不機嫌ではない）、すぐ「No」という迫力に負けず、航空券を受け取り、時間と自分の名前を確認するまで、油断してはいけません。数年前に内田先生たちと RSNA でシカゴに行った帰りに直行だったにもかかわらず、飛行機とクルーの変更のため、シカゴ空港で 4 時間待ちしたため、成田空港に 1 泊しなければならない経験の更に加えて、ハリケーン Sandy の影響でした。